

藤 支 第742 号
平成27年 6月18日

保護者様

大阪府立藤井寺支援学校
校 長 橋 本 輝 幸

平成27年度 第1回学校協議会について（報告）

平成27年6月9日（火）に開催致しました学校協議会の要旨を報告致します。

協議会会長：智原 正行（社会福祉法人 向陽学園 理事）

協議会委員：松宮 圭伺（藤井寺市立藤井寺小学校 校長）

小畑 宜寛（社会医療法人医真会 介護老人保健施設あおぞら 事業部 副部長）

竹澤 住江（卒業生保護者 しゅらの郷福祉会理事 支援センターしゅらの郷管理者）

梶ヶ山 叶（藤井寺市民生委員 児童委員協議会）

梅原 佐保子（PTA会長） *敬称略

1 開会

- ・配布資料の確認
- ・挨拶 校長 橋本 輝幸

昨年度はご助言・ご指導いただき感謝している。今年度も学校力向上にお力添えをお願いしたい。

2 報告

① 平成26年度 進路状況について（進路指導部長）

- ・小学部 卒業生12名 うち 本校中学部進学12名
 - ・中学部 卒業生18名 うち 本校高等部16名 城南学園高校1名 富田林支援学校1名
 - ・高等部 卒業生20名 20名進路先決定（グループホーム3名利用）
- 平成24年、25年卒業生2名について、今年就労できたとの報告あり。（能力開発学校卒業）

② 平成28年度 教科書選定について（教務部長）

- ・選定経過の概要、調査委員の構成を説明。
- 次回の協議会では平成27年度使用している教科書の提示と選定の報告予定。

3 協議

① 平成26年度 「学校評価」について（校長）

昨年度末の学校協議会で皆様に頂いたご意見もふまえまとめている。

② 平成27年度「学校経営計画」と「運営方針」について（校長）

「めざす学校像」について、昨年度より変更あり。

「中期的目標」について、1-(3)、2-(2)、3-(1)(3)を重点とした説明あり。

「具体的な取組計画・内容」について細かな説明あり。

○「1 教職員の資質向上を基とした学校力向上」について
(校長) 自立活動指導における教員のスキル向上にむけた組織体制の強化を図っている。また、

スパイダーの活用について学校運営推進費事業の取組3年目（最終年度）の報告会を8月に本校会場として行う予定である。また、11月には長野県で開催される全国肢体不自由教育研究会においてポスター発表を実施する予定である。

（会長）日々、OJT等で職場内の研修を重ねること、「先輩から学ぶ」ことが大事である。ぜひ行ってほしい。

（校長）今年度より初任者教諭対象研修として、年回10回の自立活動研修を実施。自立活動部の専門性が高い教諭と指導教諭の協力で行っている。

（藤小校長）若手教員の育成が課題である。支援学校は専門性が高いので大変だろう。授業見学でチームでの指導や雰囲気を知り、学校では、環境づくりと向上心が必要であると感じた。

（会長）管外での研修の報告について伝達することが大切である。伝達する時間の調整が容易でない中での工夫が重要である。

（校長）研修部との連携で報告会の実施やレポートの公開・掲示等の方法で工夫している。

（福祉）事業所でも伝達会の必要性を日々感じている。学んだことをまとめ、伝えることで、他の職員がやる気になったり、子どものためにアイデアを出してくれることを期待している。

（医療）新人をどう育てるかは大切である。失敗した時の対応をアドバイスしたり、良い経験にかえてあげることも大事である。

（校長）今年度もインシデント、ヒヤリハットの集積、事故防止等継続して取り組んでいく。

授業力向上をめざし、保護者にも授業のねらいを理解していただきやすくするため、授業参観には指導略案を作成し教室前に提示することを教務部と取り組んでいく。

児童生徒の状況に応じた教科学習の充実に取り組む。授業時間の確保のため、早下校の見直しを実施している。また、4月の給食開始時期についても検討したいと考えている。

○「進路・キャリア教育の充実」について

（校長）「移行支援計画」の活用について、卒業生保護者に活用状況アンケートを実施した。

（首席）昨年度卒業生対象に同窓会イベント等にアンケート実施。7割が事業所への活用したとの結果であった。保護者から「進路先へ改めて説明する手間が省け助かった」との声もあった。

（校長）事業所から「支援計画があり、ありがたい」との声も聞いている。

（会長）より良い支援のために学校の情報が大事。事業所利用者の情報が少ない。

（福祉）子どもの状況について子どもから成人まで年齢層を幅広い。「移行支援計画」があれば利用者の方の理解が深まるだろう。

（PTA）学校で作成して卒業時に渡す。放課後デイサービス等の利用でも支援計画がある。学校とは違った側面からの意見になる。学校がセンター的機能を担って、保護者にデイサービスの支援計画の活用についても卒業後の進路先の施設に渡すことを伝えてほしい。実際の依頼は保護者がする。放課後デイサービスの利用は卒業したら終わるが、それまでの放課後の過ごし方の情報が卒業後も活用できるのではないか。

○「学校・家庭・地域との連携と安全で安心な学校づくり」について

（校長）3回を連続したテーマで、教員の人権研修も予定している。①人権侵害についての分析（実施済）②改善の方法について③具体的に改善された点についてグループワーク形式で実施予定である。

（会長）児童生徒がどう感じているか、児童生徒の声を聞いていく。人権について大人の目だけで考えず、本人の声をどう吸い上げていくか考えてほしい。本人が受けた行為をどうとらえているか、人権を侵害するような事案に対し、保護者に謝罪して終わりではなく、本人がど

う思ってるかを大事にしてほしい。

(福祉) 利用者は職員の声のトーン、表情などよく見て、感じているので、忙しい時ほど注意して行動するようにしている。適切な言葉かけ、支援を日々シュミレーションしながら対応することを心がけている。冗談で言っているけど虐待かチェックしている。チェックシートで自己の振り返りを事業所も取り入れている。

(校長) 地域との連携では、地域住民の方を対象とし本校で夏季休業中に陶芸教室及びパソコン教室を開催する予定である。

(地域) 地域は区長とも話ができています。学校との共催で実施する防災訓練は来年の4月の訓練に向けて進めていくことで了承しています。9月4日実施の学校防災訓練には地区からの参加はなし。小さいことから始めておおきな行事への参加につなげていきたい。パソコン教室等も区長を通じて参加者を募る予定である。

○全体を通して

(PTA) 子どもを真正面から見ようとしたら、教師から保護者への質問がもっとあるはずであろう。言葉を選んだり、臆病な部分があってしっかりした質問があまりしてもらえない。教師が保護者に臆病になっている部分があるのではないかと保護者も構えてしまっている部分もある。教師のコミュニケーション力も向上させて欲しい。

自分の子どもの状況は保護者も教員には説明すればわかってもらえると思っている部分がある。自分の子どもに慣れすぎてしまっている。社会に出たときに今までのやり方では通用しないことも多くあるのではないかと。

4 まとめ

(会長) 保護者から学ぶこと、もっともっと学んでいくことが大事である。

家庭と学校がそれぞれの姿で、情報を共有してお互いに学んでいくこと。自分の方針を持って、保護者、子どもに向かうこと。家庭と学校の連携がうまくいけば素晴らしい教育が実現できる。

閉会